

# 就労に困難を抱える若者を 地域協働で支援する環境作り事業

## 成果報告書



NPO法人さいたまユースサポートネット

就労支援事業

## はじめに

私たちさいたまユースサポートネットは、2011年に行き場のない若者のための「たまり場（居場所・学び場）」をはじめ、その後、学習支援、居場所支援、就労・自立支援と、支援の幅を広げてきました。自立を迎える若者を社会につなげていくための就労支援については、2013年度から2022年度にかけて、1,498名の登録者に対し、のべ19,537件もの相談に応じてまいりました。

その若者の多くは、不登校やひきこもりを経験し、社会で「働きたくても働けない」状態にありましたが、少しずつ対人交流やチャレンジの機会を増やし、自信を取り戻していくことができるように伴走型支援を実践してきました。

そうした支援を進めていく中で、当事者である若者を取り巻く環境、具体的には地域住民、家族、企業、学校等、周辺を理解を求めていくことが、いかに重要であるかということに改めて感じるようになりました。私たちスタッフが若者と働くための準備をしていくのと並行して、若者自身がこれから生きていく社会の中に、理解してくれる人・支えてくれる人を増やしていかななくてはならないと考えています。こうしたことから、「若者を取り巻く環境への理解促進」を、2022年度のWAM事業の考え方の原点としました。

今年度は、より地域とのつながりをつくっていくために「ほりさきマルシェ」を年4回開催したほか、多様な若者の現状や地域で支える就労支援等についても学びを深めた「講演会」（年3回）、サポートしている若者の親御さんの他、まだ支援につながっていない親御さんも対象とした「家族会」（年3回）、学校連携の一環で実施した定時制高校生を対象とした「就労体験」「就労に関する講演」など、各方面に向けた取り組みを展開してまいりました。この1年を通して、大変多くの就労支援関係者や、企業関係者、福祉事業所関係者、学校関係者、行政関係者、地域自治会関係者などの皆様とつながることができ、そのご協力を得ることができました。

私たちは、この1年間の活動に加え、さいたまユースサポートネットが持つ資源を有効に活用しながら、より地域を巻き込んだ就労支援を目指していきたいと考えています。そして今後も、地域へのさまざまな働きかけ・理解促進を通じて困難を抱える子ども・若者をあたたかく見守り応援する地域づくりを進めてまいります。

このたびのWAM助成事業を通じて、私どもにこのような貴重な機会をいただきましたことに、改めまして心より御礼申し上げます。

NPO法人さいたまユースサポートネット  
就労支援事業

# 事業概要

当団体では2021年6月より社会的自立に悩む若者を対象とした就労支援事業を実施してきました。長年にわたり、地域若者サポートステーション(2014～2020年度)を受託してきた経験を基に、長期支援を要する若者や公的支援では利用要件が厳しく現行制度の支援の枠からこぼれ落ちてしまう、主にひきこもりや発達障害、グレーゾーンにある若者に対する社会参加をサポートしています。このような若者の社会参加の大きな障害の一つに、地域社会・保護者・企業・学校等のステークホルダーの理解不足も大きな課題としてあげられます。

当事者への支援のみならず、彼らを取り巻く環境(地域社会・保護者・企業・学校等)への理解促進・啓蒙活動が本事業の目的です。本事業では、以下の4つの柱で構成されています<sup>1</sup>。

## 1 地域住民への働きかけ

地域住民へ就労に困難を抱える若者への理解を促進し、支援の輪に加わってもらいました。

### 1) 講演会(4・5ページ)

就労に困難を抱える若者の実態(全国・地域)・特性等について理解を促進しました。

### 2) 交流イベント(6・7・14ページ)

マルシェ・地元自治会や農家と連携して実施しました。



## 2 就労に困難を抱える若者を持つ保護者に対する働きかけ(8・9ページ)

保護者がひきこもり・発達障害等の正しい知識を得ることで子どもへの適切な対応を理解し、保護者同士が交流、情報交換の場を持つことで不安や悩みを軽減し、良き支援者となるために家族会を実施しました。家族会では、ひきこもり・発達障害等に対する正しい知識を得るため専門家による講演を行い、その後保護者会を開催し意見交換・交流会を開催しました。



## 3 地域企業への働きかけ(10・11・14ページ)

就労経験の無い者の企業への不安を払拭するため、理解ある企業で就労体験することでその一歩を踏み出す契機を作りました。企業側からも、こうした若者の状況・特性の理解の機会として、採用等への可能性も広げてい木、ロータリークラブ・地域商店会なども交流しながら就労困難な若者の理解促進活動を行いました。



## 4 高校在学中の課題を抱える者への働きかけ(12・13ページ)

定時制高校に通う若者でさまざまな課題を抱える者は、十分な進路相談の機会が乏しく、卒業後の方向性を見出せないまま誰にも相談できない者が多い状況です。企業経営者やスポーツ選手などを招いて就労に関する講演を実施することで、就労に関わる具体的なイメージをもってもらいました。



<sup>1</sup> 詳細な行事内容については、本年度事業の進捗に伴って申請時の内容から一部変更がある。

# 講演会

講演会は就労や社会参加が困難にある若者の実態や特性について、地域社会への理解を促進することを目的として年3回実施しました。若者の社会参加にむけて、家族、学校、地域、職場等の共助の力でできることを中心に県内外の子ども・若者支援に関わる著名な専門家をお招きして語っていただきました。

第1回は、思春期分野の第一人者である児童精神科医の小野善郎先生をお招きして、これまでの思春期の子どもとのかかわりから得た知見を中心に、「自立」に向けて足踏みをする若者の課題について語っていただきました。

第2回は、「静岡方式」として就労支援の方法で全国的に注目されている静岡県立大学の津富宏先生をお招きして、ボランティアが若者の「困りごと」を中心として、支援の輪を広げていくという活動モデルを語っていただきました。

第3回は、障害者福祉、職業リハビリテーションの第一人者として知られる埼玉県立大学の朝日雅也先生をお招きして、制度のはざままで社会的自立に悩む若者に向けてどのような支援が可能か、新たな働き方の動向なども制度の利用も踏まえ語っていただきました。



## 若者の生きづらさに寄り添う～自立に向けて家族・学校・地域ができること～

講師：小野 善郎 先生（和歌山県精神保健福祉センター長）



思春期分野の専門家でも地域の精神医療にも長く携わってこられた全国的にも著名な児童精神科医の小野善郎先生が遠方から来られるということで、多くの学校関係者、支援団体関係者、行政関係者が参加されました。

これまでの思春期の子どもとのかかわりから得た知見を中心に、「自立」に向けて足踏みをする若者の課題について語っていただきました。思春期が学校教育期間中にとどまらずに長期化していること、30歳前後までは迷い、悩み、不安もあるモラトリアム期間として、失敗や否定ではなく、ありのままの自分を受け入れられるようになることの大切さを提起されました。

会場の皆様からも多くの質問、感想が寄せられました。これらの声からも、小野先生の子どもや若者に寄り添った温かい人柄からにじみ出る言葉の一つ一つが、参加者の心に沁みわたるような講演であったように感じられました。



実施日 8月21日(日)13:00～15:00

開催場所 さいたまユースサポートネット アリーナ

参加者 30名

## 就労支援で助け合う地域を作る

講師：津富 宏 先生（静岡県立大学教授）

津富先生は、「静岡方式」として知られる就労支援の方法で全国的に注目されている活動を推進しており、日頃より当団体の就労支援事業をサポートいただいている企業役員、就労移行事業所、就労支援関係者、支援ボランティアなど多彩な参加者で来場しました。

静岡方式は、①働けると信じる（IPS）、②伴走すること、③地域を再組織化する、の3つの原則で展開されてきました。日頃よりボランティア登録者の得意のことや、やりたいことを把握することで、支援者が若者の「困りごと」に直面したときボランティアの誰に頼めばわかり、ボランティアが「困りごと」を中心として、支援の輪が広がっていくというダイナミックな活動モデルを学ぶことができました。

後半はワークショップ形式で、困っている人を一人設定し、好きなこと、好きなもの、好きな人を聞き、困っている人が楽しくなるような、通称「お節介りミーティング」を実施しました。先生が目指す「私たちが構成する私たちが主体である私たちのための地域」作りとは何かについて、理論のみならず、具体的な実践方法もあわせて学ぶことができた貴重な機会となったかと思えます。アンケートでも多くの方から、貴重な学びの機会となったとの声が寄せられました。

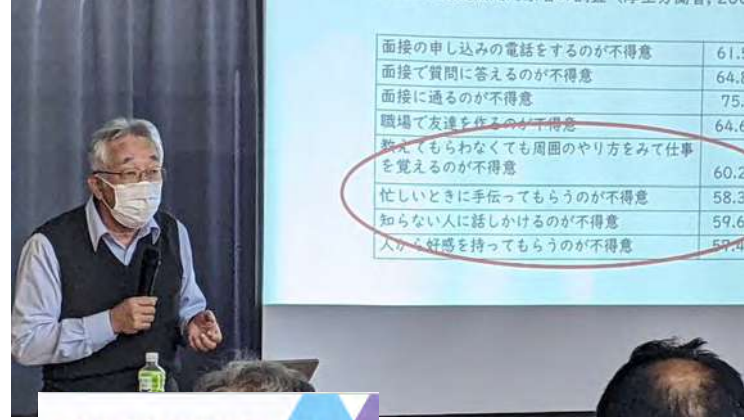
## 制度のはざままで社会的自立に悩む若者の支援

講師：朝日 雅也 先生（埼玉県立大学教授）

朝日先生は、障害者福祉や職業リハビリテーションの第一人者として、制度の活用や実践的なアプローチにもとても精通されており、近年は、共生社会の実現に向け、多様性や社会的包摂といった観点からの教育研究を展開されています。若者支援に従事するNPO団体職員、行政職員、高校教員、企業関係者、地域自治会の関係者などの多方面からの参加がありました。

講演では、制度のはざままで社会的自立に悩む若者に向けてどのような支援が可能か、短時間労働や新たな働き方の動向なども踏まえてわかりやすく解説されました。多様性を理解するために考え方や価値観、関係性を見直す「リフレーミング」の重要性や、働くことの意味を問い直し、多様な働き方の受容や若者と関わる地域や職場が相互に慣れていく過程の大切さを丁寧に説かれました。

支援関係者の方からは日頃の活動の意味を理念的な意味からも整理することができて、有意義であったとの声が複数あり、今後の活動に向けた示唆を大いに得ることができました。



NPO法人 さいたまユースサポートネット 講演会

### 就労支援で助け合う地域を作る

静岡で発展してきた就労支援の方法である「静岡方式」。一人ひとりを対象とした就労支援から、それを支える地域づくりを講じます。



静岡県立大学教授 津富 宏  
2022年11月6日（日）13:30～15:30

会場 さいたまユースサポートネット（詳細画面）  
定員 30名（参加無料）  
お問い合わせ・申込  
☎ 048-829-7561  
✉ hatachika.yn@gmail.com

申込 QRコードを読み取り、お申し込みください。  
<https://forms.gle/pU2K2Pba5qMACgY9>

実施日 11月6日（日）13:30～15:30

開催場所 さいたまユースサポートネット アリーナ

参加者 23名



NPO法人 さいたまユースサポートネット 講演会

### 制度のはざままで社会的自立に悩む若者の支援

はざまから理由から社会的自立や社会参加に悩む若者たち、既存の制度では支援が難しい若者に向けてどのような支援が可能でしょうか。新たな働き方の動向なども踏まえて講じます。

講師 埼玉県立大学教授 朝日雅也  
2023年3月19日（日）14:00～16:00

参加無料  
定員：30名

申込・お問い合わせ 【電話】048-797-7499  
【メール】hatachika.yn@gmail.com

会場：NPO法人さいたまユースサポートネット（詳細画面）  
申込：QRコードを読み取り、お申し込みください。




実施日 3月19日（日）14:00～16:00

開催場所 さいたまユースサポートネット アリーナ

参加者 23名

# ほりさきマルシェ

今年度は7月、9月、12月、3月の4回開催しました。利用者の方々にはスタッフとして準備期間から当日まで参加してもらい、デザインツールCanva(キャンバ)を活用しチラシ作成にも挑戦しました。



(利用者の方々が作成した過去のチラシ)

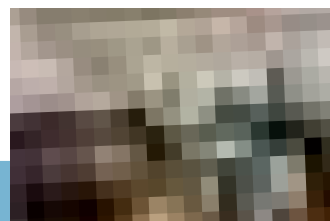
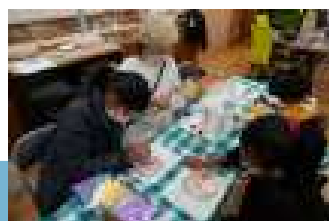
## 屋外の様子

地元の農家さんによる新鮮野菜の販売（3月は焼き芋販売も）、当団体出店のポップコーンやわたあめ、フランクフルト（7月はかき氷も）、コモンズカフェからは珈琲やプリン等を販売し、多くのお客様にお越しいただきました。子どもたちにも楽しんでもらえるよう、わなげや段ボールおもちゃコーナーも設置し、賑やかな空間となりました。また、お手伝いをしてくれた利用者の中には、接客に苦手意識がある者もいましたが、スタッフと共に販売・接客をおこなっていく中で、自らお客様に声掛けをする姿や、販売促進の為にポップを作成する等、自発的な行動が見受けられました。



## 室内の様子

大学生や就労継続支援B型事業所、地域のハンドメイド作家さんや自然食のお店等、さまざまな分野の方々にご参加いただきました。物販・ワークショップ等の趣向を凝らした内容でお客様との交流だけでなく、出店者同士の交流の場ともなりました。



## ステージ

各回3～4団体の発表を実施し、キッズダンスやマジックショー、当団体のルーム利用者とスタッフで結成したバンド演奏や箏曲演奏等、幅広い演目が披露されました。ご来場いただいたお客様はもちろん、出演者の方々からも「楽しかった」との嬉しい声をいただくことができました。



## 作品展示

創作活動をおこなっている利用者の作品を展示、一部販売をおこないました。作品の発表の場になったことに加え、利用者自身がお客様と対話することで、気づきや励ましをいただくことができたほか、展示のみの利用者たちも、感想ノートからお客様の声を知ることができ、大きな励みとなりました。



## 最後に

たくさんの地域の方々にご協力をいただき、利用者もスタッフも共に楽しみながら、さまざまな交流・経験・学びを得ることができました。近隣の方々に当団体を知っていただく機会ともなり、大変有意義な取り組みとなりました。今後も皆様のご協力を得ながら定期的な開催に尽力し、地域の方々との交流を深める中で、利用者たちの活躍の場を増やしていきたいと考えています。



# 家族会

家族会では、就労や社会参加が困難にある家族をもつ保護者に対して、ひきこもりや発達障害等に対する正しい知識を得ること、また保護者同士の交流のなかで、情報交換の場をもつことで、不安や悩みを軽減することを目的に、年3回実施しました。講師の講演後には、家族ごとに集まってそれぞれの悩み事などを共有し、交流の場も設定しました。

第1回は、KHJ埼玉けやきの会家族会代表である田口ゆりえ氏をお招きして、ご自身の体験やこれまでの引きこもり支援や研究の成果、また実践的なアプローチとして、若者に対する具体的な声かけの仕方などについても語っていただきました。

第2回は、ひがメンタルクリニックの森本佳代氏（公認心理師・臨床心理士）をお招きして、発達障害やグレーゾーンの基本的な知識、その状態について、生きづらさを抱える若者にどのような支援が必要かを語っていただきました。

第3回は、NPO法人仲良し作業所代表理事の高橋千尋さんをお招きして、仲良し作業所での事例をご紹介いただき、また参加者個々の状況を伺いながら、なかなか一歩が踏み出せない若者に寄り添う支援について語っていただきました。



## ひきこもる若者の心理 ～声かけの工夫と関係づくり～

講師：田口 ゆりえ 氏 (KHJ埼玉けやきの会家族会代表)



田口さんからは、ご自身の体験をまじえて、現在のひきこもりの状況について、ひきこもりの受容、声かけの仕方、発達障害など難しいタイプへの接し方、社会参加にむけた本人の歩みとそれに接する親の姿勢について語っていただきました。参加された保護者の悩みについても、保護者の気持ちに寄り添った助言などがあり、参加者の満足度も高い会となりました。



実施日 7月10日(日)13:30～15:30

開催場所 さいたまユースサポートネット スタジオ

参加者 8名



## 発達障害・グレーゾーンにある若者の理解

講師：森本 佳代 氏（ひがメンタルクリニック/公認心理師 臨床心理士）



森本さんからは、発達障害、グレーゾーンについての基本的な理解について、自閉症スペクトラム症（ASD）や注意欠如・多動症（ADHD）など、個々の特性について詳細に解説をいただきました。また、これらの理解を踏まえて、就労において大事なこと、家族や支援者が、就労に向けてできることについて語っていただきました。

参加者のみなさんから、発達障害、グレーゾーンについての体系的な知識、具体的な事例の紹介も含めて、より深く理解が進んだとの声が多くありました。



**実施日** 10月16日(日)13:30～16:00

**開催場所** さいたまユースサポートネット スタジオ

**参加者** 11名

## 我が子の社会的自立に家族はどう寄り添うか

講師：高橋 千尋 氏（NPO法人仲良し作業所代表理事）



高橋さんからは、東大宮地域を中心に活動されてきた仲良し作業所での10数年にわたる経験から、数多くの事例を紹介いただきました。多くの利用者が社会に自立している事例から、家族、支援者らが個々の特性や状況にあわせながら丁寧に対応していく過程について語っていただきました。参加者のご家族の事情も聞き取りながら、ご自身の経験から、参加者の個々のケースに配慮された助言をいただきました。また服薬に関わる基本的な知識や薬物乱用のリスクについても語っていただきました。



**実施日** 2月19日(日)14:00～16:00

**開催場所** さいたまユースサポートネット アリーナ

**参加者** 6名

# 就労体験 -定時制高校生サポート-

## 就労体験活動 埼玉県立大宮工業高校(2年生・3年生)

2022年12月、埼玉県立大宮工業高等学校の定時制2年生・3年生に向けて、県内の企業にて就労体験活動を実施しました。企業訪問に際しては、アルファクラブ武蔵野株式会社様のマイクロバスをご提供いただき、定時制2年生19名、3年生（機械科・建築科）19名の生徒が本活動に参加しました。普段、学校内では目にすることのないリアルなものづくりの現場を見学したり、実際に体験をしたりしながら、熱心にメモを取り、質問をする生徒の姿が印象的でした。 ※以下は生徒の感想の一部抜粋。



## 埼玉機器株式会社(さいたま市中央区)

実施日 2022年12月14日(水)

参加生徒 2年生14名

### <見学>

- 普通は見られない製造現場を見ることができ、大型バス・トラックの足回りの重要なパーツを作って、緑の下の力持ちで、乗っている人の命を守る大切な仕事だと感じた
- 会社自体も人を第一に考えておりとても働きやすそうだった
- 摩擦溶接がすごかった

### <職場体験>

- このバネとゴムはどこに使う部品だろうと思った
- 実際に部品に触れて、人力では時間がかかることもアイデアを出し改善していくことで簡単に作業が行えることを知った
- 一つ一つの作業に対して疑問の念を抱き、改善を探し寄り寄り方法を常日頃模索しているということを知りてすごいと感じた。体験したときに実際に出了問題とその解決策を教えてください、それについて自分でも考えることができた



## 山本工機株式会社(八潮市)

実施日 2022年12月14日(水)

参加生徒 機械科3年生6名

### <見学>

- インフラ設備の部品を多く作っていて、社会全体を支えていることがわかった
- 雨量を測る機械にここで作られた部品が使われていることに驚いた
- 一番印象に残ったことは、社長の『相手のいいところを探す』ということだった

### <職場体験>

- 砂型鑄造やAC切削操作体験などふだんできないことが体験できて楽しかった
- 旋盤を自分で動かすことはやったことがあったが、自動のはやったことがなかったのでやってみて機械はすごいと思った
- 授業で砂型鑄造は勉強したけれども、授業では感じなかった大変さがわかった



## 株式会社林塗装工業所(北葛飾郡松伏町)

実施日 2022年12月14日(水)

参加生徒 大宮工業高等学校(定時制)機械科3年生8名

### <見学>

- 普段目にするエンブレムやフレームがあり、驚いた。全て中国など外国から輸入しているのだろうと今まで思いこんでいたので、より一層、製品に対して親近感を感じた
- 塗装という作業一つとっても、ものすごい人たちの信念・努力・工夫が詰まっているんだと実感した
- 働く皆さんがまじめに作業しているところが職人に見え、かっこよかった

### <職場体験>

- 塗るだけの作業と思っていたけど、液だれなどあり難いと思った。こういう体験をさせてもらい勉強になった。未定だった就職も塗装関係の仕事に就きたいと思った
- はじめは難しそうに思えたが、丁寧に教えてくれて良い感じにできた



## 有限会社高中板金工業(草加市)

実施日 2022年12月20日(火)

参加生徒 大宮工業高等学校(定時制)建築科3年生4名

### <見学>

- 銅板は柔らかく加工しやすい。一度キズや形がつくと戻せないで慎重に作業するということを知った
- どのような仕事をしているのかについて、時には実践も交えて説明してくださりとても分かりやすかった
- 青森や石垣島など遠い地域からも仕事を依頼されていたことが印象に残った

### <職場体験>

- 今日見て体験した銅板加工と表札づくりを通して見るのとやるのではぜんぜん勝手が違った。やはり資格も大事だが、それ以上に技術も大事だと再認識することができた。今後建築系の資格を取得した際には取得して満足するのではなく、技術面も磨いて成長を怠らないようにしていこうと思った
- 今回の社会体験を通して、今後の進路を決める手立てになった



## 就労体験活動終えて

今回の取り組みで、改めてこの社会がたくさんの人の力によって作られていることを高校生に向けて伝えていく意義を感じました。また、働く人の姿を見て、直接話を聴く機会を得ることは、働くことの具体的なイメージを持つきっかけにもなっていくことが、その感想からもうかがえました。どうやって社会のインフラが作られているのか、普段目にしていないものがどんなふうに行われているのか、それを子どもたちが実際に体験をしてみることの意義は大きなものです。今回各社様とも、本当に丁寧にお受け入れをしてくださいました。

私たちNPOが、微力ながらも学校と企業をつなぐ役割を担うことは、大切な使命の一つであると考えています。生徒がそれによって学校内では知り得ない貴重な学びの機会を得て、企業の方にも高校生の様子や現状を知っていただくことができれば幸いです。改めまして、今回ご多忙の中、ご協力をいただきました企業の皆さまに心より御礼申し上げます。

## 就労に関する講演 - 定時制高校生サポート -

### 職業人による講演 埼玉県立大宮工業高校(1~3年生)

2023年3月15日、埼玉県立大宮工業高等学校定時制の1~3年生に向けて、職業人による講演を実施しました。それぞれの学年の生徒たちに、今伝えたいこと・伝えるべきことを、予め先生方と相談し、準備してきました。講師には、たくさんの苦労を重ねながら、熱い思いを持ち続け、企業を経営してこられた社長さんのお話や、メンタル不調を抱え、どん底を経験しながらも諦めずにがんばりぬいた総合格闘家のお話など、内容の濃い貴重な講話を、同校の生徒たちにお届けすることが出来ました。



### 1年生 講師:山本 成年さん(山本工機株式会社 代表取締役)

大宮工業高校定時制1年生(11名)を対象に、山本工機株式会社(八潮市)代表取締役の山本成年社長をお招きし、お話をうかがいました。「日々のあたりまえの中には、見えない努力が詰まっている。」というお話の切り口から、鋳物の一貫生産をする同社の説明についてもわかりやすくお伝えくださいました。また、学生と社会人の違いについて「社会は必ずしも自分と気が合う仲間ばかりではない」中でどう人とかかわっていくのかということや、「結果はすぐにでなくともそれを辛抱強く続けること」の大切さについても触れ、これからの生徒たちの学校生活にも通じる貴重なメッセージとなりました。

ふだん、なかなか接する機会のない企業の社長さんですが、山本社長自ら学生時代の様子をフレンドリーに話してください、生徒たちも興味深くお話を聞き入っていました。生徒からは「…まわりの人と話しづらかったのですが、時間をかけてでもたくさんの人と話せるよう努力したいと思いました。」「全然知らなかったことを新しく知ることができ、話を聞いていることが楽しかったです。」などの感想が寄せられました。



## 2年生 講師:榎本 悟さん(総合格闘家)

大宮工業高校定時制2年生（19名）を対象に、総合格闘技PANCRASE（パンクラス）フライ級チャンピオン榎本悟（リング名：猿飛流）からとお話をいただきました。大学在学中、仕事と格闘技を両立せんと就職活動するなか、思い悩み、精神疾患を患い、入院と3年近くに及ぶ自宅療養を経て、格闘技と復帰し、見事2022年3月にPANCRASEフライ級王者となり、現在に至るまでの壮絶な自分との闘いや周りの人たちの支えあってきた話をされました。

高校生に向けてのこれからの人生設計のなかで大切なこととして、「ありのままの自分を受け入れること」「一生懸命やっている姿はきっと誰かが見ている」、そして「自分のやりたいことを見つけること」の3点が強く投げかけられ生徒の大きく頷く姿が印象的でした。

生徒たちからは、「講話を聞いて、絶対にできないことや不可能なことも、あきらめなければできるということを感じました。」「…感じたことは、1回立ち止まって、自分を見つめなおす時間が大切だと思いました。」「話を聞いて、つらい時、大切なのは周りの人達（仲間）との対話をし、1人でかかえこまないことだと改めて感じました。」などの感想が寄せられました。



## 3年生 講師:丹野 健さん(株式会社しんけん 代表取締役)

大宮工業高校定時制3年生（19名）を対象に、一般貨物運送業の経営者で、平成18年に32才で創業し、現在では従業員170人、所有車輛86台の会社を作られてきた丹野社長からお話をいただきました。貧しい家庭で育ちながら、運送会社を起業し倒産の危機や色々なトラブルを乗り越えられた様子を聞くことができました。

「社長」というと自分とかけ離れた存在と考えがちですが、「生きるにはお金が必要。どうやって稼ぐのか。仕事によってなぜ時給が違うのか。」という率直な話から、日頃からの学習の必要性や人生の充実について語られました。生徒の感想からは、「今日の講話は嫌いだった勉強に対しての見方が変わるきっかけになりました。」

「勉強は自分を磨き給料にもつながり、人生一度きりを豊かにするものだと感じました。」

「若くして父の会社を飛び出し、自分の会社を立ち上げていく。社会を生き抜く大変さと精神的強さについてのお話が印象的でした。」などの感想が寄せられました。



# イベント

## 浦和北ロータリークラブ60周年記念イベントへの出店・販売活動

**実施日** 2022年6月4日10:00～16:00 浦和パルコ前

**実施場所** 浦和パルコ前

**参加者** 6名（スタッフ7名）

### <当日の様子>

本団体運営のコモンズカフェ看板メニューであるルーロー飯とプリンの販売をしました。商品名や値段をポップ作成が得意な若者に描いてもらい、チラシやうちわの配布など、皆で協力しながら取り組みました。はじめはなかなか声が出なかった若者も、少しずつ場に慣れ、役割を終える頃には率先してお客様に声掛けをしていました。当日は日差しが強く、はじめは売れ行きも鈍く苦戦しましたが、後半はロータリークラブの方々が一緒に販売活動をしてくださり、若者もその姿から多くの学びを得ることができました。



## 大宮商工会歳末福引イベント

**実施日** 12月9日(金)・10日(土)・11日(日) 10:30～17:00

**実施場所** マルエツ東大宮店横

**参加者** 2名（スタッフ4名）

### <当日の様子>

初めて参加した若者も、商工会のみなさんの温かい雰囲気の中で楽しく活動することができました。景品は、カニや商品券、日用品、野菜や花、お魚に小銭のつかみ取りなどかなり魅力的なものが並び、参加者は法被をきて、商工会のみなさんと一緒に声を出し、お客さんと交流できました。東大宮商工会の方から「これからもコラボしましょう！」とっていただき、今後につながる活動となりました。



## 農園整備イベント

**実施日** 3月27日（月）10:30～14:00

**実施場所** さいたま市北区の畑地

**参加者** 5名（ボランティア1名/スタッフ4名）

### <当日の様子>

当団体が管理する広大な畑で、地域のボランティアや若者たちが活動しやすいように、倉庫を整理し、休憩スペースを整備しました。参加者一同、それぞれ自身の役割を探しながら、きびきびと迅速に作業が進みました。倉庫にライトを飾って演出するアイデアなども出るなど、参加者、ボランティアも含め、今後にもけた畑作業への意欲的な感想を多くいただきました。



# 事業成果

月 日	行 事	柱1	柱2	柱3	柱4
4月~5月	実施計画の確認・各所への連絡	○	○	○	○
6月3日	アルファクラブ武蔵野(株)訪問(就労体験協力)			○	
6月4日	浦和北ロータリークラブ60周年記念イベント参加			○	
6月25日	大砂土地区自治会連合会総会参加	○			
7月10日	家族会(第1回)		○		
7月24日	ほりさきマルシェ(第1回)	○			
8月18日	講演会(第1回)	○			
9月25日	ほりさきマルシェ(第2回)	○			
10月16日	家族会(第2回)		○		
10月17日	堀崎町自治会館清掃	○			
10月31日	堀崎町自治会館清掃	○			
11月6日	講演会(第2回)	○			
11月7日	堀崎町自治会館清掃	○			
11月12日	見沼区ふれあいフェア参加	○			
11月14日	堀崎町自治会館清掃	○			
11月21日	堀崎町自治会館清掃	○			
11月28日	堀崎町自治会館清掃	○			
12月4日	ほりさきマルシェ(第3回)	○			
12月5日	堀崎町自治会館清掃	○			
12月9~11日	大宮商工会歳末福引イベント参加			○	
12月12日	堀崎町自治会館清掃	○			
12月14日	就労体験(埼玉県立大宮工業高校)			○	
12月19日	堀崎町自治会館清掃	○			
12月26日	堀崎町自治会館清掃	○			
1月10日	堀崎町自治会館清掃	○			
1月17日	埼玉県立桶川西高校往訪				○
1月30日	堀崎町自治会館清掃	○			
2月6日	堀崎町自治会館清掃	○			
2月13日	アルファクラブ武蔵野(株)訪問(就労体験協力)			○	
2月19日	家族会(第3回)		○		
2月20日	堀崎町自治会館清掃	○			
3月5日	ほりさきマルシェ(第4回)	○			
3月6日	堀崎町自治会館清掃	○			
3月15日	就労に関する講演(埼玉県立大宮工業高校)				○
3月19日	第3回講演会	○			
3月20日	堀崎町自治会館清掃	○			
3月27日	農園整備イベント	○			

本事業の**柱1**「地域住民への働きかけ」では、ほりさきマルシェの定期開催、各種地域イベントへの参加も含め、地元自治会との連携での定期清掃など、確実に若者理解における地域社会との関係作りが進みました。

**柱2**「就労に困難を抱える若者を持つ保護者に対する働きかけ」では、家族会を定期的に開催することで、正しい知識の提供、これまで目に見えなかった家族の実態を知り、また家族同士の交流の場として機能しました。

**柱3**「地域企業への働きかけ」では、ロータリークラブ・地元商店会の交流が実現し、また大宮工業高校定時制による企業での就労体験も実現し、あわせて企業より移動用バスの無償貸与をいただき、就労困難な若者の理解促進にむけた企業との関係づくりが前進しました。

**柱4**「高校在学中の課題を抱える者への働きかけ」では、大宮工業高校定時制における就労に関する講演会を実施しました。講演会では、企業経営者、プロスポーツ選手のご協力をいただきました。

## 地域社会との協働 (堀崎町自治会館清掃)

10月より当団体も所属する堀崎町自治会が管理する自治会館の定期的な清掃を実施することとなりました(毎週月曜日11:00~12:00雨天中止)。これは本事業の目的となる地域社会に向けた若者の理解に向け、若者の活動機会の創出を、当地区の自治会また広域の自治会連合会の様々な方々への働きかけを積み重ねた結果実現したものです。清掃により若者の就労に向けた準備や自治会館管理の一助となっているだけでなく、清掃中に地域の方々からも声をかけていただき、若者と地域社会と触れ合う場ともなっています。





## **NPO法人さいたまユースサポートネット**

さいたま市見沼区堀崎町12-39

TEL : 048-797-7499

URL : <https://saitamayouthnet.org/>